

通信員による  
メディア・リテラシー  
座談会

# 日ごろ感じている メディアへの疑問などについて、 通信員たちがフリートーク！



特集

**浅見** 最近のドラマで、子どもを持つ専業主婦が仕事を始めたのですが、家庭と仕事の両立を考えた結果、パートタイムで終わってしまった。私もそろそろ職場復帰しようと思っていたので、複雑な思いです。

**小山田** 私は、正社員、パートタイム、専業主婦などいろいろな経験をしましたが、女性が仕事だけ、家庭だけに生きるというのはもったいないです。働き方によっては自分の生活スタイルに合わせて時間を使うことができますし、家庭と仕事の両立もできますよ。



▲小山田 京子さん

**角田** 私は、テレビはあまり見ないのですが、新聞は毎朝読みます。でも、半分以上は理解できないですね。最近ばかりかな用語が多くてわかりにくいというのが印象です。

**久保田** 確かに、言葉によって伝わる、伝わらないということがありますね。最近、視聴率獲得のために芸能人がニュースキャスターになっていく場合が多い

く、司会者としての意見があまりにも前面に出ていて、情報を中立の立場で正しく伝えるという本来の役割を果たしていないと感じるときがあります。

**浅見** 私は、仕事で活躍している人を紹介する番組でも、男性の比率が多いように感じます。女性にも活躍している人は多いはずなので、男性に人気のある番組などで、女性の活躍ぶりを取り上げてほしいですね。また、CMやポスターなどでは男女に限らず肌の露出が多く、子どもに見せたくないものもあります。小学生の中にも夜遅くまでテレビを見ている子どもがいるようなので、誰もが安心して見られる内容のものが望ましいです。



▲浅見 靖子さん

**小山田** 報道番組に関しては、「老人」「老女」「美人OL」などという表現が気になりますね。特に女性が事件に関係している場合、どうやって殺されたかなどと詳しく報道され、人権が尊重されていないと感じます。男性においてはそういうことはないのですが、差別だと思っています。



▲角田 真治さん

**久保田** 地下鉄サリン事件以降、報道が過激になったように感じます。視聴者は報道の内容を選択して、自分で考えることが大切だと思います。報道のあり方を認識すべきですね。

**小山田** 秋葉原殺傷事件でも、救助もせずに、現場周辺で携帯電話で写真を撮っている人がいましたが、そういう行為は人権を無視した行為であり、道徳教育ができていないですね。加害者の人権ばかり尊重していて、被害者の人権尊重は薄いように感じます。

**浅見** 電車の雑誌の中吊り広告は過激な表現が多く、真実を知らない私たちは、それを真実だと思ってしまうんですよね。

**小山田** 時々出版物の記事について告訴される場合がありますが、その度に雑誌は嘘を書いていることが多いんだというイメージを抱きます。雑誌の内容をうのみにしないということでしょうか。

特集

4

その表現おかしくないですか？



▲久保田 俊美さん

**久保田** いつの時代においても、多種多様な形で人権の侵害があります。インターネットという大きな武器を使った侵害は極めて許せません。便利さゆえの情報化社会の歪みを感じてしまいます。

**小山田** 放送倫理や規制は既にありますが、最近の凶悪犯罪にはそぐわなくなってきたのだと思います。ですから、規制の見直しをするべきだと思いますね。それから、事件の詳細を報道することによって模倣犯が増えるなどの問題もあるので、報道のあり方も考えてもらいたいと思います。内容の充実したもの、読者・視聴者が求めている情報を発信してもらいたいと思います。

特集

5

その表現おかしくないですか？

## メディア・リテラシー

メディア・リテラシーとは、テレビ・新聞・雑誌などのメディアの内容を読解・活用する能力とメディアを使って表現する能力のことです。

メディア・リテラシーの基本は、メディアの伝えている内容が「ありのままの現実」ではなく、社会的に構成されたものであることに気づく点にあります。メディアは社会をあるがままに映し出しているのではなく、一定の視点で切り取って再構成した現実をメッセージとして発し、ある価値観を伝えています。

情報が溢れている現代において、私たちにはメディアの表現を敏感に見抜き、主体的に活用する力が求められています。(参考資料「女性問題キーワード111」ドメス出版)

### テレビ番組制作の現場から

●番組制作の現場で配慮していることは何ですか？

差別をなくすための努力するのは報道人の責務と考え、差別語、不快語は使わないほか、「使われた人」の立場に立って、その都度判断し、言い換えています。また、「女〇〇」や「美人〇〇」など、女性を必要以上に強調した言葉も原則避けることとしています。

●放送する前にはどのような表現がチェックされるのですか？

ニュースの現場ではデスク制度がとられています。報道ニュースが放送される前には、様々な分野での取材経験があるデスクが必ずチェックしますので、気になる表現はここで修正が入ることになります。

●新入社員にはどのような教育を行っていますか？

報道部としてあらたまった特別なプログラムはありませんが、新入社員が配属になった場合、管理職、デスク、県警・県政の各キャップがそれぞれ立場から指導、助言にあたります。また、原稿、編集した映像はデスクや管理職が必ず目を通すので、毎日が研修と言って良いと考えます。現在、報道部には女性の記者が3名おり、取材の内容により、向き、不向きを考慮することはありますが、仕事の内容、量において、男女の差は全くありません。

## 番組制作では差別なく平等をモットーに

テレビ埼玉 報道部 記者 加藤 愛さん